河北新報
（1） 16版
平成23年(2011年)5月28日(土曜日)

資料5

気仙沼・大島の津波

伝説の「島三分断」寸前

ぶつかる激流。「四方を囲まれ、地獄のようだった」

証言 3.11大震災

「大津波が来たら、島は三つに分断される」。気仙沼市の大島に残る伝説を、多くの島民は半信半疑で受け止めていた。東日本大震災で大島を襲った津波は、20㍍近い高さとなって中央部で合流して島を分断、さらに南部でも合流寸前まで迫った。伝説は命を守るために語り継いできた教えだった。島のシンボルであり、多くの住民が避難した亀山は火災に見舞われた。「島が焼き尽くされる」。島民は覚悟した。（田柳暁）

孤島

カーフェリーや旅客船が打ち上げられた浦の浜港＝4月5日、気仙沼市の大島

3月11日の本震後、浦の浜港近くの高台に住む主婦菊田栄子さん(75)は港を見続けた。海面が大きく盛り上がり、港に停泊した100㌧近いカーフェリーが持ち上がった。桟橋は橋げたが海底から引きはがされ、陸地に見えたほど。濁流は島の内陸部に突き進んだ」と振り返る。

菊田さんは「真っ黒な高い壁となった津波の中に巨大なフェリーや桟橋が見えた。一緒にのみ込まれた車が小さな葉っぱになだれ込んだ。

同じころ、内陸部に住む養殖業村上実（えむ）さん(63)の自宅と周辺は、田中浜側から到達した津波に覆われていた。

再び

「真っ黒で渦を巻く激流に四方を囲まれ、逃げ場がなくなった。まるで地獄にいるようだった」

駄目かもしれない。村上さんが諦めかけた時、急に波が引き始め陸地が現れた。すぐに家族を連れ、自宅を飛び出した。高台にたどり着くと、次の津波が押し寄せ、自宅周辺がまた津波に囲まれているのが見えた。

村上さんは「間一髪だった。波が引いたわずかな時間、高台に逃げる自分たちとは逆に、自宅に降りた人がいた。再び到来した津波に流された島民もいた」と話す。

大島を三つに分断した大津波の伝説でも、現在の浦の浜港と田中浜の間で津波が合流したとされる。

記憶

伝説でもう一つの合流地点となっているのが浅根漁港と小田ノ浜との間だ。震災では、この区間でも二つの津波が猛烈な勢いで内陸部に向かった。合流するまで数百㍍に迫り、「島は三つに分断される」寸前だった。

伝説は室町時代の大津波を基にしているともいわれるが、歴史資料に記録はない。史上最悪の津波災害とされる明治三陸大津波でも、島は三つに分断されなかったことが確認されている。

元教諭の菊田武範さん(73)は浦の浜港近くの自宅から避難する途中、明治三陸大津波でも被害がなかった場所の家屋が、濁流にのみ込まれる光景を見た。何とか逃げ着いた高台で、以前に聞いた大津波の伝説がよみがえった。

「明治三陸大津波を上回る伝説の大津波が本当に来たと思い、恐ろしくなった。信じられない現実が目の前にあり、立ち尽くすだけだった」

22面に関連記事

私の実家
母の生家